

江戸の のれんに学ぶ 事業承継と人づくり

第九回

秋色庵大坂家

倉本勝敏社長

店は客のためにあり
家族とともに栄える

モアクリエイション代表取締役 柴田光榮

東京・三田の慶應義塾大学正門前
にある秋色庵大坂家は「伊勢大椽」
の称号を持つ格式のある和菓子舗。
元禄年間に大阪から江戸に出てき
て店を構えて三百年、銘菓「秋色最
中」は江戸和菓子の粋を今日に伝え
続けています。

老舗代々の教えを継承した18代の
当主倉本勝敏さんと、次の走者の朋
実さん（勝敏さんの娘）に話を伺い
ました。
ちなみに秋色庵大坂家は商業界の
創始者、倉本長治先生の実家でもあ
ります。



店は客のためにあり
実践する心得とは

秋色庵大坂家の店先には、次々と
訪れるお客が絶えません。不思議な
のは、和菓子店なのに男性客が多い
ことです。取材に伺ったのは3月14
日、ホワイトデーでした。
「女性社員に贈るために」という会
社の社長、「バレンタインデーのお
返しは秋色最中に決めてある」ご主
人など、男性を含めて長年の愛顧者

が多いことを垣間見た思いです。

道路の拡幅工事で駐車場のなくな
った秋色庵大坂家が、不便をかける
お客のために実行しているサービス
がドライブスルーです。

「事前に電話を頂ければ、品物の受
け渡しから会計まで、近くに止めた
車の中で済ませていただけるように
しています。ホームページでもご案内
内していますが、好評です」

近所のお年寄りに届けるサービス
もしているそうです。「お店として

Profile

くらもと かつし
1942年生まれ。明治学院大学経済学部卒業。上野風
月堂の勤務を経て、66年蒔大坂家に入社。74年代表
取締役就任。（東京）港区商店街連合会事業企画委員、
三田商店街振興組合監査などを務める